

令和4年度 第2回 彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会 会議録要旨

日 時	令和4年(2022年)10月19日(水) 14:00～15:00
場 所	彦根勤労福祉会館 3階 中ホール
出席委員	廣川会長、志賀谷委員、扇一委員、椎名委員、外海委員

企画振興部次長

大変お待たせいたしました。

本日は、お忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

企画振興部次長(企画課長)の馬場でございます。

ただいまから、第2回彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会を開催させていただきます。

本日は委員7名中、5名の方がご出席されておりますので、彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会設置要綱第6条第2項に規定する定足数を満たしており、会議が成立しますことをご報告申し上げます。

それでは、開会にあたり市長よりご挨拶を申し上げます。

市長

今日、国立印刷局の理事長さんをご挨拶に見えまして、実はその方が、内閣府でまち・ひと・しごと創生本部の参事官をやっておられた方で、まさにまち・ひと・しごと創生総合戦略に取り組んでおられた方でした。

そういうことでしたので、ほとんどまち・ひと・しごと創生総合戦略の話ばかりをさせていただいていました。

その中でおっしゃっていたのは、当然、地方においては人口減少が問題で、人口を増やしていかないといけないのですが、いきなり人口増加が難しい中で、まず関係人口を増やしていくことが大事であるということでした。

具体的どういった取組かという、「スキルシフト」とおっしゃっていたのですが、今、副業が認められているというところで、1か月に1回とか回数を決めて、東京のサラリーマンが、地方の会社に来て指導をするといった取組があるようです。実際の具体例として、スイスの大きな製薬メーカーの東京の事業所に勤めておられる方が、富山県の野球のバットのメーカーに月1回来て、いろんな経営の会議に参加されているということもあるようです。そのマッチングサイトも

あるらしいのですが、そうした中で関係を築いていくということで、これが結構、有効であるとのことでした。

理事長さんは「何かあったら何でも聞いてください」とおっしゃっていましたので、これからお世話になって、色々とお伺いしたいと思います。先ほど話題にした富山のバットメーカーの事例でも、マッチングサイトに募集を載せたら9名の応募があって、そのうち1人を選ばれたということですし、熊本県でもうまくいったということでした。

我々は今、テレワーク等も一生懸命進めていこうとしている中ですし、こうした取組によって関係が築けて、将来的にはそのうち何人かが移住をしてくれるかもしれませんので、ぜひ進めていきたいと感じたところです。こういった事例も紹介いただきながら、我々も取り入れるべきものの取り入れていきたいなと思います。

「人口が減少している中で、人口増加を目指すのはどうなのか」というようなご意見いただくこともあります。しかし、我々としては、総合戦略として人口増を目指していかない限りは、意味がないぐらいに思っています。

彦根市は今年に入ってから人口が県内第3位に返り咲きました。コロナ禍で出生率が下がって人口は微減となっていますが、今後、行財政改革を進めて、子育て世代の支援等を少しずつ充実させていきたいと考えております。皆さんのご意見を聞きながら、ぜひ人口増を目指していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

企画振興部次長

ありがとうございました。

それでは、同要綱第5条第1項の規定に基づき、ここからは、会長に議長として進行をお願いしたいと思います。

それでは、会長、議事の進行をよろしくお願いいたします。

会長

それでは、ただ今から、議事に入りたいと思います。

まず、議題(1)「彦根市総合政策推進体制について」でございます。

なお、本議題については、大変情報量が多く、複雑な内容であるため、「総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略の現状」、「新たな評価体制の概要」、「新たな評価体制のスキーム」の3つに分割して説明を区切り、その都度、質疑応答を行い、委員の間で共通理解を図ったうえで次に進め、最後に全体を通してご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

それでは、「総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略の現状」について事務局から説明をお願いします。

事務局

（「総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略の現状」について資料１のスライド１～４や参考資料を用いて説明。以下、説明の要点）

①本日の趣旨

- 本市にはこれまでこの協議会で外部評価等をしていただいていた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と、もう一つ同じような計画で、より上位に位置し、かつ分野が広範囲にわたる「総合計画」というものがある。
- この２つの計画はこれまで別々に進捗管理を実施していたのだが、同じようなことを繰り返しているので、来年度からは統合したい。
- 統合するに当たっては、本協議会の体制をベースにして、必要に応じて修正を加えたい。
- こうしたことから、来年度以降の体制案について説明し、現行の協議会の構成員である皆様からご意見を頂戴したいというのが本日の趣旨である。
- 最終的には本日皆様からいただいたご意見を受けて、必要に応じて案を修正し、来年度以降の体制を確定させたいと考えている。

②総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略の現状

まち・ひと・しごと創生総合戦略について

- 彦根市が実施する政策・施策のうち、特に「人口減少対策」を分野横断的にまとめたもの。
- 「まち・ひと・しごと創生『総合』戦略」という名前だが、この下に各個別分野の戦略がぶら下がっているわけではなく、あくまでも「単独」の計画。
- いわゆる「地方版総合戦略」といわれるもので、国・県にもそれぞれに「まち・ひと・しごと創生総合戦略」があり、市では国・県のまち・ひと・しごと創生総合戦略を踏まえながら、彦根市のまち・ひと・しごと創生総合戦略を作成している。
- 国の地方創生関連の補助金・交付金を活用するための計画でもある。

総合計画について

- 添付している参考資料のうち「彦根市総合計画基本構想」を用いて説明。
- 総合計画は市の最上位計画であり、まち・ひと・しごと創生総合戦略も含めて、他のすべての計画の指針となるものである。
- 総合計画では彦根市が実施する政策・施策は網羅している。

両計画の関係

- 総合計画の方が分野が広範囲にわたるので、まち・ひと・しごと創生総合戦略に記載されている施策はすべて総合計画にも記載されている。

両計画の進捗管理

- 両計画とも内部評価→外部評価という流れは同じである。
- 本協議会はまち・ひと・しごと創生総合戦略の外部評価を担っている。

会長

ただ今の事務局から、「総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略の現状」について説明がありました。

まずはここまでで、ご質問をお受けしたいと思います。

どのようなことでも結構です。ここまでの説明についてご質問などがありますか。

(特に質問等はなし)

皆様、ここまではご理解いただけましたでしょうか。

(委員から異議なし)

それでは次に進みたいと思います。事務局から「新たな評価体制の概要」について説明をお願いします。

事務局

(「新たな評価体制の概要」について資料1のスライド5～7と資料2を用いて説明。以下、説明の要点)

- 総合計画は市のすべての政策・施策を網羅しているので、総合計画の評価に一本化していく
- 総合計画の各施策とSDGsの紐づけは完了している。それをもとに「彦根市版SDGs」(資料2)を作成し、総合計画と一体的に進捗管理をしていく。

会長

ただ今の事務局から、「新たな評価体制の概要」について説明がありました。

どのようなことでも結構です。ここまでの説明についてご質問などがありますか。

ちなみに総合計画の各施策には、SDGsのアイコンが入っていますが、これは総合計画審議会でも議論をさせていただいて決まったものです。

ご質問等はございますか。

(特に質問等はなし)

皆様、ここまではご理解いただけましたでしょうか。

(委員から異議なし)

それでは次に進みたいと思います。「新たな評価体制のスキーム」について事務局から説明をお願いします。

事務局

(「新たな評価体制のスキーム」について資料 1 のスライド 8～13 と資料 3 を用いて説明。以下、説明の要点)

- 総合計画は、施策が 46 もあり大変多いので、毎年すべての施策を外部評価するのは時間的に難しい。そこで一定の基準を設け毎年 10 施策前後を協議会で選び、外部評価していく。

会長

ありがとうございました。だいたいの全体像がおわかりいただけたかと思います。

ご質問も含め、ご意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。

私の方から、質問させていただきたいのですが、SDGs は彦根市の総合計画と紐づけられているということですが、彦根市版 SDGs は総合計画ができたのちに作成されたのでしょうか。

事務局

彦根市版 SDGs がどういう経緯でできあがったのかと申しますと、まず総合計画においては、総合計画審議会でもご議論いただき、それぞれの施策に対応する SDGs を選定していただきました。

そうした対応関係を、資料 2 のスライド 3 からスライド 7 の表のように整理しまして、今度は逆に、それぞれの SDGs に対応する総合計画の施策を抽出して、それぞれの施策の「12 年後の姿」、「主な取組」の中から、当該 SDGs に関わりが深いものを抜粋してまとめたものが、彦根市版 SDGs となります。

会長

ということは、総合計画を作った上で、SDGs について整理したら、彦根市版 SDGs ができたということで、総合計画と同時にできたということでしょうか。

事務局

そのとおりです。

委員

建付けや仕組みはよくわかります。そもそも論になりますが、効率が悪くなってきたので一本化するということですが、もともと総合計画があって、それから地方創生が始まりました。私も最初から関わっていますが、そのときにいかに違う施策を組み合わせ、横串を刺して、新しい人口増加に寄与する施策を作っていくかが問われていました。そのときに、なかなか新しい施策が出てこず、元の施策がベースになってしまい、新しい戦略を作っていくというところまでいかなかったように思っています。そのため、両計画が似通ってくるのは当たり前かと思います。

そういう趣旨ですので、なぜ2つの計画があるのかということを考えていかないと、人口増にはつながっていかないように思います。一本化することで、元の総合計画のみの状態になっていかないかとも懸念します。余談ですが、そういった感想を持ちました。

会長

人口増に向けて、基本的なところは毎年チェックした方がよいという意見にも聞こえるのですが、いかがでしょうか。

委員

仕組みとしてはこれで構わないのですが、そもそも、なぜ似通ってきたのか、効率が悪くなってきたのかという点について、まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定時点でも、そうしたことが予想されたということです。

あと、外部評価を絞り込んでやるということも効率的でよいとは思いますが、内部評価のみで、自らの目で厳しく評価できるのか、第3者の意見を聞いて、初めて気づくということもあるので、その辺を含めてしっかり評価をしてほしいと思います。

会長

10 施策を委員が選んで評価するというということで、それ以外の他の施策については外部評価が入らない年があるので、その点を一番危惧されているように思います。

委員

効率化なので反対するわけではないのですが、今申し上げた懸念を踏まえ、しっかりやっていただきたいということです。

会長

毎月会議を行うというのも大変ですし、仕組みがしっかりと働けば大丈夫かとも思いますが、いかがでしょうか。

評価する軸をしっかりして、効率的かつ効果的に実施し、空いた時間で施策をさらに考えて、推進していくという形であれば、大丈夫かとも思います。

他の委員はいかがでしょうか。

委員

46 施策から 10 施策を選ぶということですが、10 施策選んで評価していく中で、当該施策に関連する施策も多々あると思います。10 施策絞るのはよいことだと思いますが、評価をしていく中で、他の関連する施策についても考慮する必要が出てくることもあると思います。その場合に関連する施策も含めて、協議会として助言をすることができるのであれば、何ら問題はないと思いますので、運用の仕方を十分注意をしていただければよいのではないかと思います。

委員

K P I が低いものを中心に 10 施策を選定するということですが、第 1 回協議会の資料を見ますと、K P I を達成できていない施策も散見されるようです。K P I を達成できていない施策が 10 以上ある場合は、どのような扱いをされるのでしょうか。

会長

事務局いかがでしょうか。

事務局

K P I を達成できていない施策でも、K P I の達成率というものが出せますので、その達成率が低いものを選ばせていただこうかと考えています。

また、さきほどから皆様からご意見を頂戴しているとおり、事務局で検討しているときにも、「K P I で選ぶと、外部評価対象の施策が固定化してしまうのではないか」という意見も出まし

て、そういうこともございますので、例えばK P I の達成率が低いものでも、前年度に外部評価済みの施策とかについては、次の年度では違うものを選ぶとかそういったこともあり得るかと考えています。

K P I の達成度が低いものを、絶対に選ばなければならないとは考えておりませんで、そういったことも含めて、委員の皆様といろいろと相談しながら選んでいただこうかと考えています。

会長

外部評価は 10 施策で実施するとのことですが、46 施策すべての内部評価結果を委員に説明されるのでしょうか。

事務局

はい。今ほど会長がおっしゃったように、まず来年度の 1 回目の協議会で、46 施策すべての内部評価結果を委員の皆様提示させていただいた上で、「事務局としては、この 10 施策を外部評価していただこうと考えております」という形で、説明をさせていただきたいと思います。

したがって、46 施策すべての内部評価結果を委員の皆様に見ていただこうと考えています。

会長

ありがとうございます。委員、いかがでしょうか。

委員

そういう形であればよいのかなと思います。委員から「この施策は取り上げた方がよい」などの意見が言えて、フレキシブルにできるのであれば、それでよいかと思います。

会長

他にご意見はありますか。

他に私の方から、資料 3 の施策評価シート(案)で、「12 年後の姿」から「4 年後の目標」に至り、そこから「4 年後の目標に対する現在の進捗状況の評価」という流れが見えにくいので、もう少し見やすくしていただければと思います。「間違った方向に進んでいないか」という点も重要な評価項目だと思いますので。

事務局

もう少しそうした流れを意識できるように、施策評価シート(案)の様式を検討させていただきます。

会長

他にございますか。

(特に意見なし)

他にないようですので、ここで出た意見を十分考慮いただいて、最終仕上げていただければと思います。

続きまして、議題(2)その他事務連絡等でございますが、事務局より何か連絡事項はございますか。

事務局

(今後の予定等について説明)

会長

ありがとうございました。

皆様のご協力により、スムーズに議事を進行することができましたことを感謝申し上げます。
予定より早いですが、本日の会議はこれで終了します。ありがとうございました。